

# 東京民医連

# 東北地方太平洋沖地震 支援ニュース

2011年3月15日

No.13

発行：東京民医連事務局

電話：03-5978-2741

FAX：03-5978-2865

## 東京民医連から第二次支援隊が到着！吉田副部長・原副主任が帰任しています。

東京民医連から第二陣として譜久村事務局次長・滝澤医師部副部長が14日昼過ぎに毛布などの支援物資を積んで坂総合病院に向かいました。22時前に到着し、ただちに支援活動を始めました。

入れ替わりに第一陣の吉田副部長・原副主任が14日午後9時に帰任し、現地の様子がわかってきました。坂総合病院では14日朝までに約700人の急患がありそのうち入院は200人、死亡が13人と重症者が圧倒的に多く深刻な状況です。

入院は主に坂のスタッフが対応。救急外来の一部対応や避難所訪問を支援スタッフが行っています。

多くの被災者が避難所に收容されたため、そこから来られない患者が多数います。避難所は寒さや食糧不足もあり、着の身着のまま避難された方々は家も流され薬もなく、二次被害が懸念される状況。

### 避難所への医療班派遣が重要です！

坂総合病院は地域の基幹病院として自治体から多数かつ広範囲の受け入れ要請があります。他にも警察から死体検案を依頼されているなど、やる事は山積しているとのこと。全国から約200人の支援が入り大変助かっていると現地から感謝されています。現地スタッフは激務が続く、自身が被災しているスタッフもおり、なんとか休ませてあげられればと思います。ガスの復旧にともない食事は支援者にも出せるようになったということで、二次支援隊が持参した食糧は供出しました。しかし今後も念のため持って行ってください。



坂総合病院でのミーティングの様子

### 【現地の医師のコメント】

現地の医師（佐藤栄三郎医師）の話では、今ももちろん大変だが、一ヶ月後くらいに慢患の方が悪化してくるのが心配。受け持ち25人のうち数人は受診、入院できているが、半数以上は連絡とれず。ステロイド使っている方など離脱症状が心配。訪問するにもガソリンがなく動けない。行政に何とかしてほしい。

## ほくと支援チーム今朝6時に出発！

宮城・塩釜市の坂総合病院に向けて第1陣の支援メンバーが、15日午前6時に王子生協病院を出発しました。写真左から王子生協病院外来の乾いつ子看護師長、豊川通り診療所の今泉貴雄所長、荒川生協診療所の奈良遙看護師、組織部の森松伸治、王子生協病院医事課の吉野浩司の5人です。

東京ほくと医療生協では、大場理事長を本部長に、坂井専務理事をはじめ法人事務局メンバーを先頭に、緊急支援会議を開催しました。まず第1陣の派遣を行い、第2陣派遣を19日（18日から変更）から行います。医師はじめ職員から派遣参加の名乗りが上がってきています。

